

実践事例発表レジュメ

| | |
|------------|--------------------------|
| 研修・研究事業名 | 公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム |
| 実践事例名（テーマ） | 特産品のびわによる地域振興 |
| 事業主体（実施機関） | 南国市立稲生ふれあい館 |
| 連携・協力機関等 | 高知大学・高知県庁・南国市役所 |
| 発表者 | 前田 学浩（まえだ みちひろ） |

期日 27年5月19日

内 容

【取り組み背景】

稲生地区は、南国市の南西部に位置し、二級河川の下田川が東西に横断する地形で、肥沃な農地が広がっています。古来より、水稻栽培が盛んで、米の二期作の発祥地です。

また、良質な石灰岩の産地であり、戦後は、多くの住民が石灰鉱工業に従事していました。この石灰は、漆喰の材料ともなり、この春、改修された世界文化遺産の姫路城の最大の特徴でもある美しい白壁には、稲生地区の材料が採用されています。

このように、農業・鉱工業と特徴ある産業を誇っていた稲生地区でありましたが、近年、全国の地方同様に少子高齢化が進み、現在、地区の人口は、約1700人、高齢化率は約36%で、小学生は、ピーク時の25%程度になりました。

一方、稲生地区では、近年、学びの中心である小学校と公民館の連携が推進されています。それは、2005年より稲生小学校が取り組み始めたPTCA化（PTAに地域を意味するC：コミュニティを入れた組織）が、一つの契機となりました。また、2008年より文部科学省の学校支援地域本部事業を受託し、一層の地域との連携が図られました。（2010年は、全国生涯学習ネットワークフォーラム【学校を核とした地域コミュニティの再構築部会】の視察会場。2011年は【優れた地域による学校支援活動推進にかかる】文部科学大臣表彰受賞）。

今後とも持続可能な地域づくりにつなげていくためには、新しいテーマ・コミュニティによるもう一段の方策が望まれていました。また、小学校に地域住民が参画する仕組みは確立されていますが、公民館への若い世代の参画は、充分ではありませんでした。

このような中、文部科学省より、2013・2014年度に【公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム】を受託し、活動を行いました。
